

K S K R
NO. 18

パンジー だより



発行 1996年9月
編集 クリエイティブハウス
“パンジー”

みんなで共有してきた時間の流れの中で

私たちつばさグループが、障害者と健常者が共に生きる地域づくりをめざして自立の家「つばさ」をオープンして以来、10年が経過しました。あつと言う間の10年だったとも言えますし、無我夢中の10年だったとも言えます。

思いおこせば、ひと昔前の一人一人の若かった頃の姿と生活のありようが、昨日のことにように思いうかびます。その当時のメンバーのIさんやAさんが、現在パンジーに通ってきています。みんなで共有した時間の流れの中でそれぞれに自立を果たし、そう遠くない将来、知的障害をもつ人達のリーダーとして活躍するための、やさしさとたくましさをかいまみせてくれています。また、パンジーがオープンしてからのつきあいである人達の中にも、いろいろな経験を積み重ねる中で、親から離れてグループホームでの生活を選んだ人達もいます。これまで奪われ続けてきた自分への信頼を取り戻し、誰のものでもない自分の生活をつくっていく姿をみているのは、気持ちのいいものです。

反面、パンジーとしてのそれぞれのメンバーに対する適切な支援とサービスの提供について考えた時、支援の不十分さと制度として確立していない現状でのサービス提供の困難さを、冷静に見つめていきたいと思っています。そして、これまでの10年の中で蓄えてきた一人一人への自立に向けての支援の経験を活かして、より多くの人達の個人生活のために提供できるシステム作りと適切な支援をこれからの課題にしたいと思っています。

その節目として、今回のイベントを企画しました。ぜひ、みなさんお越しください！そして、だれもが生きやすい社会をめざして活動していくためのきっかけになったらいいなあと思っています。みんなで集まって元気になりたいと思っています。

(よしみ)

つばさグループ10周年イベントについては、折込みチラシをごらんください。

まもなく来る「食欲の秋」は
パンジーの無添加パンで



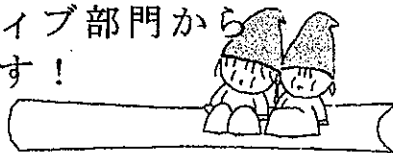
厳しい残暑の続く今日この頃ですが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

今年の夏は「病原性大腸菌O-157」が猛威を奮い、安易に食物を口にはできないという異常事態でした。私たちパン部門もこの事態を重視するところになりました。皆さんのご家庭ではどのような対策を立てていらっしゃるでしょうか。

さて、夏休みは小中学生にとってはうれしいものですが、パン部門にとっては厳しい期間となるわけです。しかし、生産量が減る分、個々のパンを丁寧にみることができ勉強や研究ができる時でもあります。まもなく来る「食欲の秋」は、パンジーの無添加パンで満たしてください。

by 竹内

クリエイティブ部門から
お送りします！



皆さん、こんにちは。クリエイティブ部門からお送りします。この夏の暑さは、メンバーも少し外に出るのが辛そうです。そんな中、近くのスーパーでの販売、畑仕事など汗をかきながらも頑張っています。スーパーでの販売で、回を重ねるごとにお客さんへの対応が自信を持ってできるようになる姿を見て、頼もしく思えます。

最近、箸置き的大量注文があり皆はりきって作っています。それぞれのペースでそれぞれのセンスで作っています。箸置きその他、皿やコップといった世界にひとつしかない手作りの陶器で、あなたの手料理をいただいてみませんか？

「ごなんん作って！」という注文も承ります。お気軽にパンジーまでご連絡ください。これから、過ごしやすい季節になり、ますますパワーアップします。このパンジーだよりを読んでもくださるすべての皆様に、できれば私たちの商品をお届けしたいと思います。

(池内)

自立を目指す
知的障害者のための
ピア・カウンセリング講座
東京3泊4日

パンジーが、国立援助為センター(自立生活センター)のピア・カウンセラーである境屋うららさんを招いて、知的障害者向けのピア・カウンセリング(以下ピア・カン)を95年6月から2か月に1回のペースではじめて1年以上になります。

ピア・カンはもともと、地域生活を目指す障害者の自立生活運動の実践のなかで生まれてきたもので、おおざっぱにいうと、自立した障害者がこれから自立する障害者に、自立のための技術的ノウハウの提供をすると同時に、精神的な支えになるというもので、身体障害者に対してはほぼ確立されていると言っていいのではないかと思います。それに対して、知的障害者のピア・カンは試行錯誤のなかで少しずつ実践が積み上げられている状況であり、パンジーもその真ただ中にあるのではないかと思います。

パンジーのピア・カンの参加メンバー13人のうち、グループ・ホームや文化アパートで実際に親と離れて自立している人が6人、9月からグループホームで生活する人が1人、自立することを決めてそのために体験宿泊している人が1人、自立にむけて生活経験を獲得して、しかる後に自立することを目標に体験宿泊している人が2人です。実際に自立を目指すピア・カン参加メンバー(既に自立している人もいますが)にとり、このピア・カンは、人の話を聞き、人に話を聞いてもらうことの大切さを知ることや、自分に自信を持つためのセッションなどが行われているそうです。それはピープルファーストにおいて言われる「自分を信頼し、その自信から人は何かをやろうとする気が起きるのだ」からみれば、まさに自立しようとする意志をもつことを喚起するピア・カンであると思います。

さて、今回のピア・カンは東京で8月4日から3泊4日で行われました。1日目はピア・カン会場でありまた宿泊先でもある多摩障害者スポーツセンターで東京の知的障害者の人達との交流会。2日目は9時から5時まで集中ピア・カンと4グループに別れてのホームステイ。3日目は9時から5時まで集中ピア・カンで、4日目は昭和記念公園でのプールや散歩などのレクリエーションでした。

今回はピア・カンと同時に4日間寝食を共にすることで、お互いの中に仲間であることの実感が強まったようです。またこの4日間で他の地域の人たちと交流するのが初めての新しいメンバーたちの中に自信がついたようです。(大北)

「1日ゆっくりするひまなく 楽しいものが見えてくるのであります」

グループホームについて、「つばさ」の肌勢俊一さん、語る。

Q グループホームはどんなところ？

グループホームというところは、一人一人組合せをつけてやっていかなければならない。たとえば、一人一人の食べたいものを組み合わせて何人分か何時間かかかってつくって食べる。それはみんなのいこいの場でもある。

Q グループホームのいいところは？

明るくてほのぼのとしたところもあるし、東君があとから帰ってくるど

「あたし帰って来たよ」とかさげぶ、一日がそのもので過ぎ去ってしまう。東君が伊藤さんといっしょにしょうぎをしているのを見ると、僕はすぐに休みに入ってしまう。「肌勢さんもう休むの」と聞く、一日ゆっくりするひまなく楽しいものが見えてくるのであります。

Q 肌勢さんはどうしてグループホームに入居したの？

前の西尾君らとかおったから入ったんや。これから前進でやっていったらいいと思う。グループホームのほかには旅行で楽しむことがいちばん楽しい



「あゆむ」のようすを 福田直美さんが話す。

近てつバスにのってかえってきます。

つばさグループホームへパンジーの帰りによったりしています。

ふろあらいをしてびかびかにしています。

ふろやさんにも行ってます。

ふろあがりになったらジュースをかってのんだりしています。

村上さんとかい物へ行ったりしています。カラオケぼっくすへうたをうたいにいます。昨日、花火をしてとっても楽しかったです。

時々、荒井君の家へ電話をかけています。

グループホームでは、よくしゃべってにぎやかです。よるおそくまでおきてて楽しいよ。



メンバーの好きな仕事ベスト3は？

秋風が吹き始めるとともに、ショップのリサイクル商品の品物の少なさが目立つようになりました。

ショップでの仕事でメンバーが好きなベスト3は、1位・レジ打ち 2位・ウェイター 3位・品物並べです(4人にしか聞いていませんが)。もっともっと品物がうれたらいいな、と話しています。そして、どうしたらお客さんがきてくれるのだろうか、みんなでアイデアをだしあっています。

ショップパンジーが開店して1年半。お店に並ぶさをり織りも陶器もずいぶん上達しました。無添加パンは相変わらずおいしいです。畑でとれた作物もそのうちにお店に並ぶでしょう。ぜひ、みなさんショップパンジーをのぞきに來てください。

また、リサイクルコーナーへの物品提供もお願いします。委託販売もやっていますので、ご一報ください。(tel 0729-66-8824) (S. I)

毎日の食材はできるだけ新鮮なものを

「オオイチゴウナナ」の8文字に悩まされ続けた今年の夏もようやく終わろうとしています。

連日ファックスで流れてくる行政からの指導に基づき、わがパンジー厨房も全食材の加熱、調理器具の消毒、そして検食の長期保存など、ナーバスな日々を過ごしています。が、一方でこれを機にパンジー内の衛生管理が改善させたり、メンバーの衛生意識が向上するなど、プラスの面も否めません。

毎日の食材はできるだけ新鮮な物をと、その日の朝、市場より届いたばかりの生鮮食品をスーパーの仕入れ口より直接わが車で運び込みます。また、月に何回かはとれとれの無農薬野菜が芳野農園から届けられます。負けじとメンバー手作りのかぼちゃ、トマト、なすなど、〇-157とは無縁の個性的な野菜達が競ってその日の昼ごはんを豊かにしてくれます。今後も、万全を期し皆と力を合わせて〇-157から厨房を守ってゆきたいと思っています。(河野)

パンジー夏の旅行 「ひこうきでいく、ながさき」

「今年の旅行は長崎だ！」

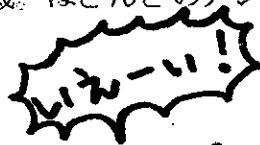
7月17日、朝6時30分。ねむい目をこすりながら、いよいよ長崎に向けて出発！飛行場にむかうバスの中は、早くももり上がっていました。

「えらい ゆれで 体がふるえた」

今回の旅行のお楽しみは、なんといっても飛行機。ほとんどのメンバーが「飛行機初体験」で、みんな大騒ぎでした。

*しつもん！ ひこうきはどうか？

- ・ きんちょうしてもた！（西尾）
- ・ とみやんが はじめて乗ったから
こわがって ぼくにつかまっていた（清水）
- ・ こわかった（川西）
- ・ 楽しかった（河野）
- ・ （もう一回のりたい？） ううん・・・。（久保）
- ・ おもしろかった。やっぱしパンジーはうるさいな。とぶとき こわいな。
めっちゃこわいなー。こんどは外国いきたいな。（梅原）
- ・ 飛行機がだんだんと走っていく気がした。えらいゆれで 体がふるえた。
それも急にスピードが出て 空こうからそらにまいあがる じょうたいであった。（肌勢）



「ながさきは あつかった！」

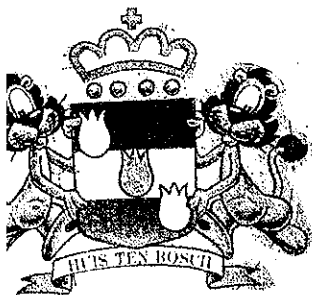
飛行機をおりると、今度は観光バスにのって市内までいき、おひるごはんに名物長崎チャンポンを食べました。その後はグループごとに市内観光。それぞれちんちん電車にのったり、おみやげを買ったりしましたが、あまりの暑さにダウン寸前の人も・・・。

- ・ 池内君と じんりき車にのりました。（福田）
- ・ バスガイドさんが 車歌教えてくれたので2番ないのか 質問しました。（東）
- ・ バスの中で「シルバーブルー」をうたった（富田）
- ・ バスが何ともいえず感じが良かった（西尾）

「大宴会！」

ホテルでは「しっぽく料理」をかこんで大宴会となりました。ビールを飲んだりヘルパーさんのおしゃべりを楽しんだり。そのうちに恒例のカラオケ大会が始まり、みんなの幅広いレパートリーを披露してくれました。

- ・カラオケがおもしろかった。「ヤングマン」とか「気分そうかい」をうたった
パチパチパンチをした (平川)！



*しつもん！ —— ヘルパーさんはどうだった？

- ・よーしゃべりまくってた。おもしろい、てゆうたらもっとしゃべってた。(清水)
- ・最初はちょっとしゃべりにくかったけど、おもしろかった。(岡本)
- ・いろいろお話しした。おもしろかった (梅原)

ハウステンボス」

18日は、台風が近づきあいにくの雨でしたが、ハウステンボスでアトラクションを楽しんだり、買い物をしたりして過ごしました。

ハウステンボス、ちょっとこわかった (岡本)
(一番おもしろかったのは?)

— ハウステンボスの写真をさす — (長田)

おもしろかった。ごはんをたべた。(西田)



パンジーの夏旅行感想 ヘルパー編

- ☆ハウステンボスのオランダ・レストランでケーキを注文したらなかなか出でこず時間切れになりそうになり、あわてた。清水君が、まだ残っていたので「遅れるから急いでくれる」と言ったら、「何度も言うな。いそがせるな」と怒った。「一度しか言ってへんのに！」とむっときて、ちょっと考えて「でもそれもそうかな」と思って、だまって横にすわっていた。(広田)
- ☆ハウステンボスでは、ほとんどの施設に入れなかった北川くんだが、最後に入った「オルゴールファンタジア」では、オルゴールの音色を楽しんでいた。出てきてからも、鼻歌を歌っていた。(梅本)
- ☆今まで知らなかった人と接することができるということが魅力でした。そういうことで山本くんとも楽しくすごせました。またペアでない人も、私を見て接してくれたり親しく話しかけてくれたりしてもらったことで、少しずついろんな方と“わくわく”を通してすごしてきたのだなということを実感しました。(朝平)
- ☆エレベーターに乗る時に、久保さんが岡本くんの車椅子をおした。メンバーどうしのそういう関係というのはいいものだと思った。(和田)
- ☆ハウステンボスのアトラクションの西洋風水芸(?)で武田さんは、普段絶対に見られないような驚いた表情をして楽しんでいました。私はといえば、アトラクションそのものよりも武田さんの表情をみているのが面白かったというあたりでしょうか。(須山)
- ☆ガリバーていをみてまわったあとの自由行動ではちんちん電車に乗った。終点でおりてちょっと歩くと寺があった。中からはすずしげな風がふいている。クーラーがきいているのか。すずしいのは入り口だけでがっかりした。さっちゃんも多分すずしそーだったから入ろうと思ったんだろう。だから多分だまされたんだろうと思った。(小林)
- ※編集者注 「グラバーてい」

☆宴会の時に野畑さんに「年いくつですか」と聞いたら「20才」と返ってきて、「えーウソやろー」ともう一度聞いたのですが、次は「23才」でした。(豆子)

☆なんでみんなそんなにカラオケが好きなんだろう。それだけ認められる場に飢えているということなのか。梅原くんはしきりに“えんかい、えんかい”とのりのりだった。(小林)

B.Y ゆきめ



メンバーたちが何をどんな風に行っているかということより、彼らが今何を感じ、どんな気持ちでいるかに注目しています。何をしても、全く何をしていなくても、自分自身が素直に出せているかどうか気がなります。

中新井 滯子

先回の自己紹介に続いて「メンバーへの具体的な関わり」について書くようにとの編集者からの要請です。しかも連載でとは、私にとってはかなりの重荷ですが、情報の共有は意味のあることと思い承諾しました。まずは私の一日です。

パンジーでは、私はほとんどクリエイティブ部門にいます。作業内容は日により人により異なりつつありますが、集中して取り組んでいる人もあれば落ち着かない人、休憩している人さまざまです。私はメンバー達が何をどんな風に行っているかということより、彼らが今何をどのように感じ、どんな気持ちでいるかに注目しています。何をしても、全く何もしていなくても、自分自身が素直に出せているかどうか気がなります。コトバで訴えることの手先な人でも、表情の変化の少ない人でも彼らの動きや態度の中に、本人の思いと与えられた状況とのズレを見てとることもあります。また不安や不満が昂じて攻撃や引き込みりなど心配な時は、個別に話し合うようにします。彼らの一言の中から、沢山の気持ちが伝わってきます。

集団生活での不適応行動はお母さんを悩ませ、相談を受けることもあります。夕方からはスタッフ達とミーティングを行ない、具体的な関わり方を検討しています。

話し合われるのは、メンバー個別の問題だけでなく、同じ障害をもつ人達に共通する事柄についてや、作業場面の設定、指導方法、施設側のスタッフの配置の問題などもあります。短期間では解決できないことが多いのですが、問題の理解と解決の方向性はお互い確認しているところです。そんな中から、メンバーの行動や思い、私自身が感じたこと、具体的な関わりなど書いてみることにしました。「乞うご期待」と言いたいところですが、あまり自信はありません。皆さんからもご意見を聞かせて下さい。

「みんなで泊まれて、楽しかったよ」 東京 IN ピアカウンセリング報告

8月4日から4日間、ピア・カウンセリングで東京に行って来ました。(p. 3参照) “うらら” とのピア・カン、多摩スポーツセンターでの宿泊、2日目は4グループに分かれてホームステイ、最終日には昭和記念公園でのプールや散歩など、さまざまな体験に触れて大阪に帰ってきました。東京に行ったメンバーにそれぞれインタビューして感想を聞いたので紹介します。



富田：“うらら” とバスケットとかして楽しかった。からしビスケットを食べてとても辛かった。よその家に行ったときは、ご飯を食べたり、ジュースを飲んだりしたわ。

久保：(富田：花火とかしたよなー) うん！
(よその家にとまりにいったよなー)
うん、うん。
(久保ちゃん、東京行って楽しかったな)
うーん!!

福田：花火して楽しかった。
“うらら” と会って感動した。

平石：泊まったところ、あそこ広くていいねー。

肌勢：新幹線から海がみえた。きれいだったわ。
平石さんと一男くんと一緒にとまっていたのしかった。
(東京の第一印象は?) うーん、あっ、東京は涼しいわ。

清水：体育館が大きかった。
(多摩スポーツセンターはどうでしたか) 風呂が温泉みたいだった。
また、何度か行きたいと思っている。

青山：そーだなー、皆で泊まれてたのしかったよ。

生田：(ホームステイはどうでしたか) 青山さんと僕とで渡辺さんのところに泊まったんや、渡辺さんも障害者やなんやけど、お茶やご飯を出してもらってすごく嬉しかったんや。「また来て」と言われて嬉しかったわ。

麻窪：(ピア・カンどうでしたか) “うらら” と話をして人の気持ちがわかってきた。パンジーの人たちが一日でも早く、気持ちがわかりあえたら良いなと思った。

河野：皆とのボール遊びが楽しかった。プールで泳げた。気持ちよかった。
(東京での成果は) “うらら” と話できるようになった。

岡本：プールで泳いで楽しかった。阿部さんとあえて嬉しかった。



「パンジーはなんでパンジーという名前なのですか？」

7月2日、たくさんの小学生が「パンジー」や、ショップ「パンジー」の見学に来た。今年から、近所の鴻池東小学校の3年生が社会科の時間に、パンジーで体験学習をすることになったのだ。毎年3年生がパンジーに来て、近所の子どもたちみんながパンジーを知っていったら、たいへんうれしい。

パンジーにきた子どもを見ていると、自分に興味のあることはじっと聞いているけれど、興味のないことには上の空になるのがよくわかった。その中で、メンバーはしっかりと子どもの興味をとらえて説明をし、質問に答えていた。さすが！

小学校から子どもたちの感想が届いたので、一部を紹介します。

「パンジーはいいところなんだな」
鴻池東小学校の3年生がパンジーで体験学習



★「みんなで、きょうりよくしてパンを作っているのかなあ。パンジーからわたしの家がちかいので、すぐにあそびにいけます。わたしのお母さんが、かびんを

「ショップパンジーにもっていったいいよ」といったら、わたしは、もうはしってショップパンジーに行って、ぜったいに売りにいきます。けど、もし、お母さんが「だめ」と言ったら、とつてもとつてもくやしいと思いました。パンジーの人は、1人でくらしたいと思っているのかなあと思います」

★「わたしはパンジーの人が、楽しそうに はしおきのところやコップやくまの人形のおきばしよを教えてくださいました。それで、うれしそうに手作りのくまの人形をさわっていました。だからうれしい気持ちでつくったんだなっと思いました」

★「パンジーはどうしてだん地の近くにあるのかなあ、だんち地の人がすぐにパンジーに行けるのかなあと思いました。パンジーはいろいろなものを作っていてつかれないのかなあと思いました。作っていてしっぱいしたらどうするのかなあと思いました。またはずしてさいしよからするのかなあと思いました。パンジーにはコンピューターの所でふじゆうな人もコンピューターができていたのですごいと思いました。(略)それで二階に行って、どらえもん会みたいなのをしていました。ふじゆうな人もハンガーを作ってもなかなかはいらない所を見て、ぼくは手伝ってあげました」

(吉田)

なんでパンジーというのか? の答え「パンを作っているからパンジー!」

書き損じハガキ、切手(未使用)を持っています! ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか? 自立生活部門ではこれらを集めて活動資金にあてたいと思っています。ご協力をお願いします。

ご協力ありがとうございます

<後援費を振り込んでいただいた方> (敬称を略させていただきます)

田中 誠 疋田慎介 小林将元 埴下千里 大槻小浪 中林恵子
アトリエホロニカ 光愛病院 前田公子 細田和子 ヒューマンケア
国乗きみ 豆子寿士 中企連 竹川節子 青新一 御影保子
大谷 強 坂本吉章 吉田和子 柳久子

<カンパ・寄付をいただいた方>

高山みよこ 昴島美智子 岩山直功 神田千代子 久保田卓 青新一 埴下千里

<書き損じハガキをお送りいただいた方>

布施郵便局解放研 西田美智子 ゼンゼン同盟明和グラビア労働組合
二文字理明 真宗大谷派宗教所同和推進本部 訓覇 浩 橋本 明子

<外へ飛び出すためのカンパをいただいた方>

柳久子

つばさ10周年記念イベントチケット好評発売中!

永六輔さん講演&ロックバンド「シャンテ」コンサート

日時: 10月9日(水) 6時30分開演

場所: 東大阪市立市民会館市民ホール

チケット: 大人 2500円

障害者/介護者/小・中学生 1500円

(共催: 「ゆめ・風・10億円基金」)

メンバーが全国へ飛び出すためにカンパをお願いします

全国の知的障害者が集う会議が各地で行われています。その会議では、自分たちのこと、将来のこと、自立についてなどを話し合います。

現在、旅費、宿泊費はメンバーの個人負担。少しでもメンバーの負担を軽くするためにぜひ、カンパをお願いします。

パンジーでは後援会員を募集しています。

賛助会員	1口	1ヵ月	500円
本会員	1口	1ヵ月	1,000円
特別会員	1口	1ヵ月	5,000円
郵便振替番号	00950-1-300551		

クリエイティブハウス「パンジー」

編集人 東大阪市東鴻池町2-4-8
クリエイティブハウス TEL:0729-63-8818
“パンジー” FAX:0729-63-8825

発行人 関西障害者定期刊行物協会
大阪市城東区東中浜2-10-1-3
緑橋グリーンハイヴ1F・7F企画気付